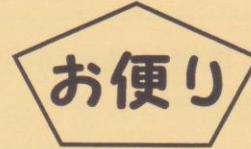


特定非営利活動法人

長寿社会を考える会



平成 22 年 6 月 1 日

第 8 号

第 23 回 定期総会を開催しました

長寿社会を考える会 第 23 回定期総会が 5 月 15 日 (土) 午後 3 時から、センティ富士森の多目的ホールで開催されました。平成 21 年度の活動報告、会計報告および監査報告に続き、役員改選、平成 22 年度の活動の基本方針、各部の活動計画、予算案などの審議が行われ、いずれも原案通り承認されました。



総会風景 (出席 22 名、委任状 33 名、会員数 67 名の過半数で成立)

平成 22 年度 活動の基本方針

高齢者の支援活動を行う際に重要なことは、行政の手が届かないところにも支援の手を差し伸べる「やさしさ」が、活動の根底にあることではないでしょうか。しかしながら近年、私たちを含めて多くの NPO 法人は、もっぱら行政の下請け的な活動が多くなり、補助金依存型の運営が続いた結果、自由に発想する能力が退化しつつあるように思われます。このような状況から脱け出すためには、初心に帰って、市民のボランティア活動と寄付金を重要視して、自由な発想で行動する本来の NPO へと変革させることが必要です。地域社会がどのような活動を必要としているかを感じ取るアンテナを張り、行政をリードする気構えを持ちたいものです。一方で、健全な運営を維持するために、財政面の裏付けが必要であることは当然のことです。

そこで今年度の重点項目として、次のことを取り上げたいと考えます。

- (1) 事業の多角化を進め、収益の安定と非収益部門の財源確保を図る。
- (2) 平成 23 年の実施に向けて政府で検討されている NPO 法人に対する税制優遇策に備え、「認定 NPO」の取得をめざす。
- (3) ホームページと広報紙を利用した広報活動を活発に行う。
- (4) 定年退職を迎えた団塊世代の人材を有効に活用し、会員の輪を広げる。

法律で縛られて自由な発想が困難となっている事業からは、少し距離を置いて活動することを検討する必要があります。しかしながら、これまで私たちが歩んできた路線から急に大きく舵を切ると、さまざまな問題が生じることが予想されます。当面、従来路線を継続しつつ、新しい路線へと、時間をかけて緩やかに変革させたいと考えます。

(理事長 荒木 毅)

事務局 ○1月に東京都福祉保健局高齢社会対策部の主催で東京国際フォーラムにおいて開催されたシンポジウム「中高年のための地域デビューのすすめ」にパネル出展しました。○常勤職員の社会保険加入を推進しました。○業務の見直しによる効率化を進めました。○備品台帳、交通費支払規定、自動車通勤規定を整備しました。○当会の活動PR用ちらしを作成しました。

ボランティアサークル ○男の料理教室を4回実施しました。第1回は6月、参加者24名、スタッフ5名、台町市民センターにて、第2回は10月、参加者18名、スタッフ5名、台町市民センターにて、第3回は1月、参加者19名、スタッフ4名、東浅川保健福祉センターにて、第4回は4月、参加者8名、スタッフ4名、東浅川保健福祉センターにて。○11月に認知症サポーター養成講座を開催しました。

生涯学習部 ○ミニデイサービス「火曜の会」を43回開き、参加者は延べ434名でした。この活動は平成21年度で区切りをつけ、今年度からは、第1週の「おしゃべりの会」は「川柳の会」、第2週の「ビデオ鑑賞会」は「映画鑑賞会」、第3週の「手芸の会」はそのまま「手芸の会」、第4週の「作って食べよう」は「お料理の会」となって、それぞれ地域との交流を続けながら、当会の支援のもとでセンティ富士森の新サークルとしてスタートしました。

有償介護・家事援助サービス部（まごころケア八王子） ○質の高いケアに努めましたが、残念ながら活動時間は前年度を下回りました。○ヘルパーの健康管理に留意し、インフルエンザ対策として、マスク、アルコール、使い捨て手袋を配布し、予防接種を奨励しました。○広報活動として地域交流会に積極的に参加しました。○いちょう祭りに参加してチラシの配布などを行いました。○在宅介護支援センターとの連携に努めました。○ヘルパー研修として10月に口腔ケア講習会を実施しました。

<活動実績> 年間活動日数312日、年間利用者数延べ141名、月平均利用者数12名、年間活動ケアワーカー数延べ145名、月平均活動ケアワーカー数12名、年間訪問件数863件、年間活動時間1,747時間、年間研修回数2回、年間苦情相談件数3件、運営委員会12回、コーディネーター会議24回、ホームヘルパー定例会6回、交流会2回。

介護保険・訪問介護サービス部（ケアサービスまごころ） ○内部研修および八王子市、東京都社会福祉協議会、市民福祉団体全国協議会、全社協等主催の講習会に積極的に参加しました。4月：介護サービスの情報公開、認知症への取り組み、介護サービスの向上を目指して・介護サービス情報の公表対策研修、5月：事業者連絡協議会、八王子ブロック学習会、6月：公演「ヘルプマンがやってくる」、7月：介護報酬改定後のこれからの対応、8月：ドンとこい痴呆症、9月：新型インフルエンザ感染予防研修、八王子訪問介護員資質向上、10月：訪問介護計画作成セミナー、11月：高齢者権利擁護研修、八王子訪問介護員資質向上、1月：訪問介護計画作成セミナー。○インフルエンザ対策など、ホームヘルパーの健康管理に留意して活動しました。

<活動実績> 年間活動日数302日、年間利用者数延べ328名、月平均利用者数27名、年間ヘルパー派遣数延べ169名、月平均ヘルパー派遣数14名、年間活動時間2,805時間、月平均活動時間234時間、運営委員会12回、まごころケア八王子との併用ケア4件、コーディネーター会議24回、ヘルパー定例会6回、ヘルパー交流会2回、相談・苦情解決14件。

みんな
この1年
がんばりま

第23回定期
平成21年
活動報告よ

介護保険・居宅介護支援事業部（ケアプランまごころ） ○ケアマネージャー2人体制を継続しました。○介護報酬改定に伴い、初回加算・独居加算などが上乘せされ、わずかながら報酬増となりました。○介護認定基準の見直しに伴い認定状況が厳しくなり、新規プランはわずかな増加となりました。○居宅介護支援事業所とケアマネージャーの更新制度に基づき、5年ごとの更新手続きを完了しました。○ケアマネージャー2人が認定調査研修を受けていたため、他区からの依頼による認定調査を行いました。○平成21年度の重点目標であった「業務の標準化」を目指し、業務マニュアルの見直しを行いました。○利用者の自立支援、法令遵守、公正中立な立場の堅持に留意して活動しました。○八王子市介護サービス課、高齢者支援課、障害者福祉課、地域包括支援センター、八王子指定居宅介護支援事業者連絡協議会、市民福祉団体全国協議会、東京都社会福祉協議会、医療機関など、関係事業所・団体との連携に努めました。

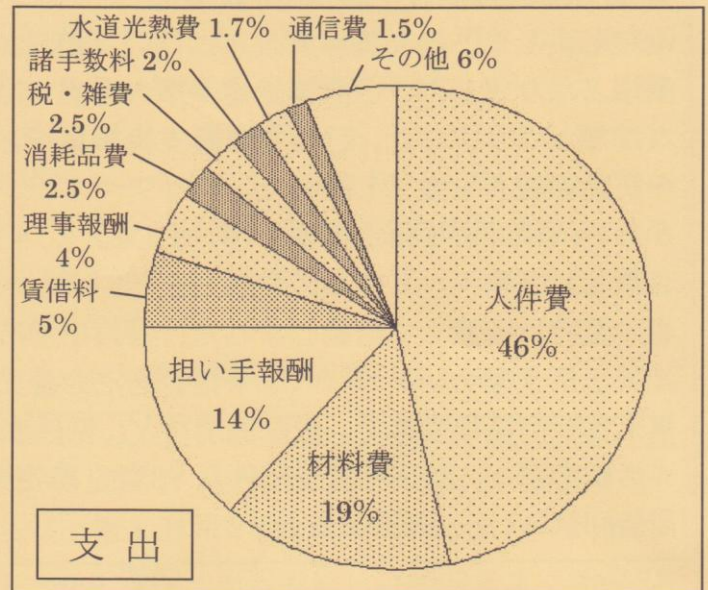
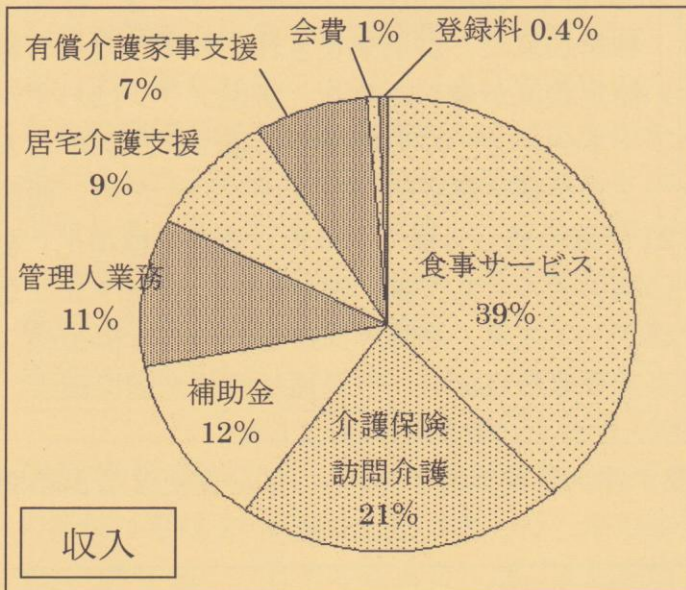
<活動実績> 年間相談受付件数 76 件、認定調査 1 件、更新手続き 23 名、区分変更 3 名、年間研修回数 27 回、運営委員会 12 回。

食事サービス部（さくらんぼ食事サービス） ○スタッフ一同、単にお弁当を作って届けるだけでなく、高齢者の方が住み慣れた地域で、健康を維持し、いきいきと暮らすことができるよう、安否確認と情報伝達に配慮して活動しました。○作業マニュアルに従い、サービスの標準化に努めました。○レシピに基づいて調理し、常に試食して技術の向上に努めました。○配達中は保冷袋・携帯電話・伝言メモを持参し、多様な状況に対応できるようにしました。○センチ入居者の要望に応え、従来の 650 円に加えて、500 円のお弁当を配食するようにしました。○配達地域の拡大を図りました。○土曜日の配達 3 コースのうち 2 コースを一人配達とし、経費削減に努めました。○全国老人給食協力会および東京食事サービス連絡会を通して、他の事業所との情報交換と交流を行いました。○市役所高齢者支援課および地域包括支援センターとの連携に努めました。○備品チェックと運行日誌の記録を励行しました。○センチ富士森入居者を対象に隔週土曜日に開いていた「喫茶の日」は、利用者減少のため終了しました。○スタッフの研修と福利厚生を重視し、スタッフの役割分担を明確にしました。○基本健康診断を奨励し、インフルエンザ予防接種を義務化しました。

<活動実績> 年間活動日数 305 日、活動スタッフ数 17 名、年間活動延べ日数 1,810 日、年間利用登録者数 151 名、年間配食数 22,695 食、運営委員会 12 回、推進会議 12 回。

管理部（センチ富士森管理人業務） ○お花見会（4 月）、春・秋のお食事会（5 月・10 月）、大正琴とオカリナの演奏会（6 月）、センチ祭（8 月）、作品展（11 月）、クリスマス会（12 月）、鏡開き（1 月）などの各種行事を開催して、入居者間および入居者と地域住民との交流を図ることができました。○入居者に対する広報活動の「季刊紙センチ」を、7 月、10 月、1 月、4 月と年 4 回発行し、時期を逃すことなく情報伝達を行うことができました。○健康管理業務の一環として看護師による健康相談を実施している「ナースの日」は、近年利用者が減ってきたため、館内放送による利用の呼び掛けなどを実施した結果、利用者の減少に歯止めをかけることができました。○関係機関の協力を得て、新型インフルエンザ対策講習会および第 1 回～第 4 回お口の機能向上セミナーを開催し、入居者に対する健康意識の啓発活動を行うことができました。○防災対策の一環として全居室分の非常用給水ポリタンク購入を公社に申請し、7 月に入荷しました。これにより、大地震発生などで長期間断水した場合の非常時給水の備えができました。

平成 22 年度予算 (総額 40,735,500 円)



<平成 22 年度役員>

<退任>

理事就任に当たって

高橋 昭

長い歴史と伝統のある当会の理事に就任し、改めてその職務の重さを痛感しています。4人に1人が高齢者という時代が直ぐそこに来ています。しかしながら、現実には高齢者が安心して豊かな暮らしが出来るような社会には程遠いのではないのでしょうか。このような状況であればこそ、当会が果たすべき、また果たすことを期待されている使命、役割は非常に大きいとの自覚と責任感を持って職務に当たらなければと、気が引き締まる思いです。常に次のことを念頭に置き、与えられた職責を全うして行きたいと考えています。

- (1) 我々自身のことを広く社会に知ってもらう努力をする。
- (2) 地域社会が今最も必要としているサービスは何かを考える。
- (3) それらのサービスを迅速に提供するように努める。
- (4) 我々の目的に賛同し、活動に対し理解と支援をしてくれる人の輪を広げてゆく。

皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

<編集後記> 新体制が発足しました。まずは、楽しく仕事をする雰囲気作りの最中です。

特定非営利活動法人
長寿社会を考える会

〒193-0933 東京都八王子市山田町 1606-12 センティ富士森内
Tel (042) 665-2334 Fax (042) 665-2345 <http://www6.ocn.ne.jp/~chouju/>